

超人気FP!

— ABC ネットニュース —

## 深野康彦の 先取り経済NEWS!!

編集・発行 株式会社 アサヒ・ビジネスセンター 2019年12月6日

今月のトピックス 「同盟を裏切り変節してしまうのか?日本」

**本**来はマクロやミクロの経済時評を取り上げるのが筋なのですが、今回は「政治(外交)」を取り上げることをご容赦願いたい。国会やメディアは「桜を見る会」の追求にいそしみ、国益にかかわる議論や報道が行われない「平和ボケ」が蔓延していることに我慢がならないからです。国益に絡む内容とはズバリ「習近平国家主席の国賓としての来日」です。結論から言えば、国賓来日は反対すべきだと筆者は考えています。

なぜなら米国と中国は「覇権戦争」を行っている真最中であるからです。覇権戦争は「新冷戦」と言い換えてもよいのですが、米中関係が最悪になりつつあることから、中国は日本に擦り寄ってきたと考えるべきでしょう。日本は中国と距離的に近く、貿易量も多いことなどから、中国が日本に寄ってきたのだから、日本も歩み寄るべきという考え方が政治家の間で出ています。一見もっともらしく見聞きできるのですが、日本と米国は同盟国であることを忘れてはなりません。日中が近づけば近づくほど、同盟国である米国は「裏切った」、今風にいえば「ムカつく」となるのです。安倍総理とトランプ大統領は仲が良いのですから、そんなばかな?と思われるかもしれませんが、しかしながら、2019年10月22日、「即位礼正殿の儀」が行われたのは記憶に新しいのですが、出席された世界の要人(国王、王妃、大統領、首相など)の中で同盟国米国は最もランクの低い「運輸長官」を派遣したのです。元々はペンス副大統領が来る予定でしたが、日本の裏切りにより同盟国日本の国事に際して軽量要人を派遣してきたわけです。これに対して米国は同盟国日本を舐めていると考えるのは愚かといわざるをえません。理由は日本にあるのですから。

オバマ大統領時代に日米関係は一時かなり険悪になりましたが、安倍総理は欧州各国が次々参加を表明した中国指導の「AIIIB(アジアインフラ投資銀行)」へ参加せず、米国の信頼を取り戻したのです(最近では参加に傾きつつあるようですが)。さらに、米国議会で行った「希望の同盟」の演説で信頼はより深まり、日米関係はより強固になったことを忘れてはならないのです。ところが、安倍総理は自らの言動で同盟国米国を裏切る行為をしようとしているのです。「裏切り者」のレッテルは米国からまだ貼られてはいませんが、貼られた暁には国防、経済などを含め米国から過激な要求を突きつけられることでしょう。「トランプ大統領の変節が始まった」と大合唱が起こるかもしれませんが、変節したのはわが国日本であることを理解しなければならないのです。筆者の変節、あるいは都市伝説と思われるかもしれませんが、ネットを検索すれば同様の記事はたくさん見つかるはず。報道されていないだけなのです。